

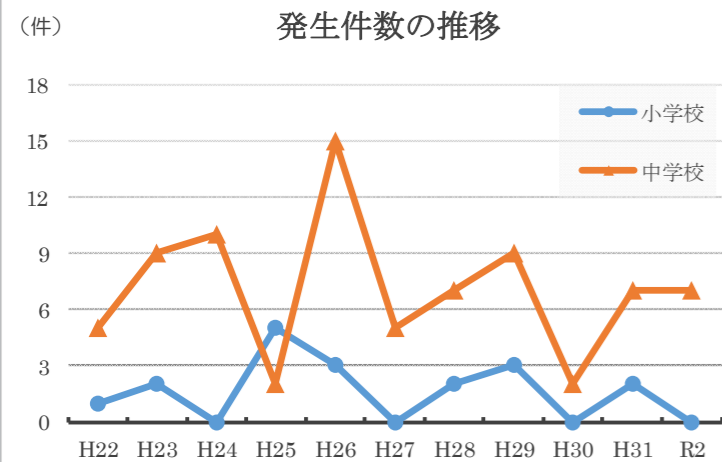
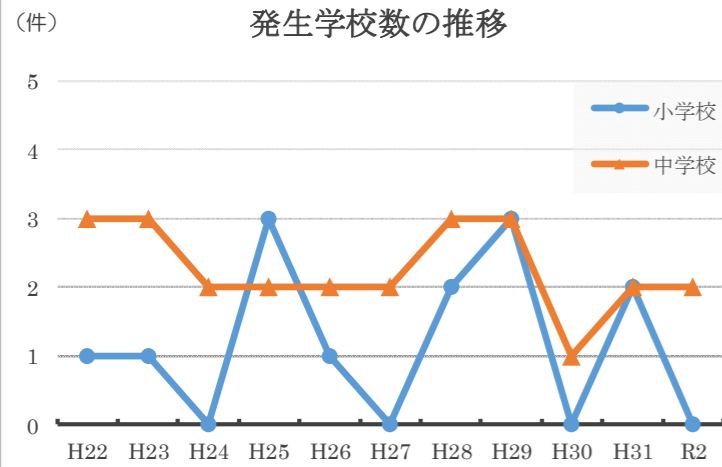
令和2年度 狛江市におけるいじめ・不登校等の調査結果について

<調査の目的>

本調査は、児童・生徒の問題行動や不登校等について、市内公立小・中学校の状況を調査・分析することにより、教育現場における生活指導上の取組のより一層の充実に資するとともに、本調査を通じて、実態把握を行うことにより、児童・生徒の問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応につなげていくものとする。

市内小学生 人数(人)	平成25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和2年度
	3,197	3,183	3,223	3,246	3,267	3,394	3,518	3,622
市内中学生 人数(人)	平成25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和2年度
	1,296	1,317	1,331	1,349	1,360	1,320	1,286	1,289

暴力行為



【調査結果の報告】

小学校では平成31年度に暴力行為は2件の報告があったが、令和2年度の発生はなかった。中学校では平成31年度と同様に7件の報告があった。

「生徒間暴力」は、からかい、ふざけ等の些細なきっかけを原因として発生していた。良好な人間関係を構築するためには、Q Uの結果を有効活用しながら、学級経営の安定化を図ることが必要である。

「器物破損」の原因としても、「生徒間暴力」と同様にふざけによるものと報告があった。周囲の状況を確認し、正しい行動が取れるように指導を継続する必要がある。

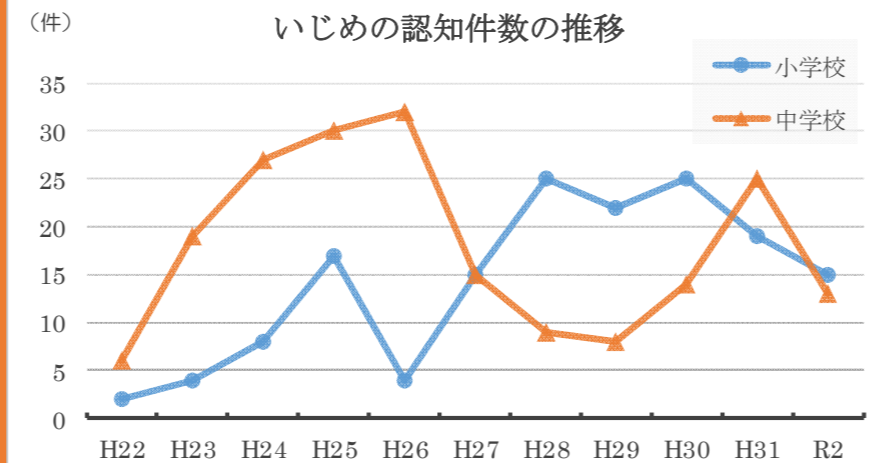
いじめ

いじめを認知した学校数、いじめの認知数 (件)

区分	学校総数	認知した学校数	認知していない学校数	認知件数
小学校	6	6	0	15
中学校	4	4	0	13

いじめの様態 (件)

区分	小学校	中学校
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	10	10
仲間はずれ、集団による無視をされる。	2	0
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをそてたたかれたり、蹴られたりする。	1	2
ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする。	0	0
金品をたかられる。	0	0
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	0	0
嫌なこと恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	4	1
パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	1	1
その他	0	0



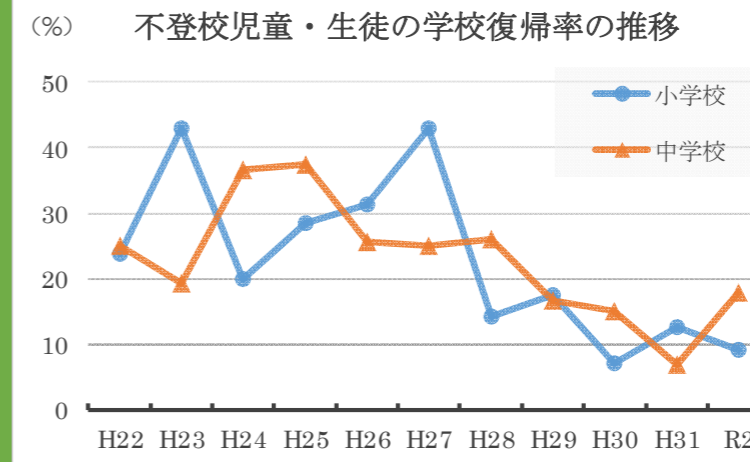
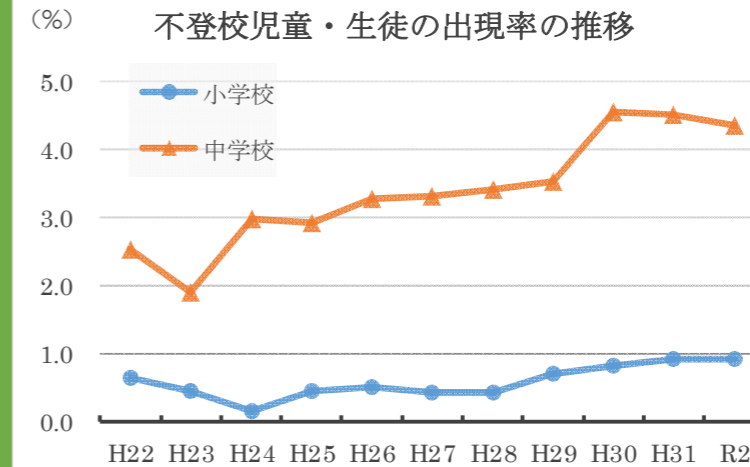
【調査結果の報告】

小学校では平成30年度をピークに減少傾向にある。男女別による認知件数の差異はほとんどなかった。中学校では、平成31年度に比べ10件以上少なくなった。男女別によるいじめの認知件数の差異はほとんどなかった。

いじめの様態としては、小・中学校共に、冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われるが最も多かった。

いじめは適切に認知して早期解決を図ることは当然であるが、未然防止に向けて家庭や地域との連携による態勢づくりが大切である。

不登校



【調査結果の報告】

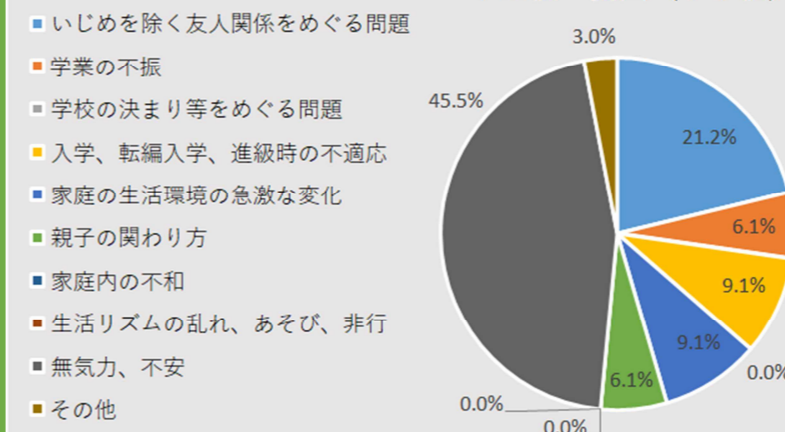
不登校の出現率は、小学校では平成29年度から微増傾向となっている。中学校では平成30年度をピークに減少傾向となっている。

不登校児童・生徒の学校復帰率は、小学校では、平成31年度より約5%減少、中学校では約10%増加した。

不登校の要因は、小・中学校共に「無気力・不安」が約半数を占め、次に「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が多かった。中学校の特徴として「生活リズムの乱れ、あそび、非行」での不登校が発生していた。

不登校の対応としては、文部科学省が令和元年10月に示したとおり、学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、児童・生徒が自らの進路を主体的に捉えて社会的に自立を目指すための支援が求められる。

不登校の要因 (小学校)



不登校の要因 (中学校)

